

2012.5

vol. 100

改訂版 vol. 30

女性委員会だより

らくだ



社団法人 岐阜県建築士会 〒500-8076 岐阜市司町1番地岐
総合庁舎3階 〈電話〉(058) 266-5786 〈FAX〉(058) 266-6867



はじめに

■ 退任の挨拶

前女性委員長 飯沼 あい子

委員の皆様には二年間にわたり諸活動に御協力をいただきましてありがとうございました。

女性の人生には家庭・子育て・介護とさまざまな時期があり委員会活動にも参加できない時がままあります。しかし、何歳であっても気兼ねをすることなく参加できるのが女性委員会だと思っています。

そして、私自身少し動けるようになったこの時期に委員長を務めさせていただきました。もう少し若ければもっとフットワーク軽くいろいろな活動ができたかも知れないと反省することしきりではありますが、皆さんのおかげで何とかバトンタッチができそうです。

新しく委員長になられた宇佐美さんの下で若い世代の女性の力を発揮していただいて新しい委員会活動に参加して下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 委員長挨拶

新女性委員長 宇佐美 泉

飯沼委員長の後、平成24年度より女性委員長を務めさせていただくことになりました、宇佐美 泉です。よろしくお願いいたします。

委員会の在籍年数は長いのですが、途中で介護等家庭の事情でしばらく休んでいましたので、わかっているようでわかっていない所もあり、少々不安ですが皆さんに協力していただきながら委員会活動をしていけたらと

思っています。

私たちは、建築に携わっている者の集まりですが、置かれている立場は皆さん様々です。独身の方、子育て中の方、両親の介護をされている方等。日々の生活の中で、少し時間にゆとりができれば委員会活動に参加して下さい。フルに活動しなければ、なんて思わなくていいんです。講習会(勉強会)・研修会(見学会)・懇親会等の中で、できることから興味のあることから参加して下さい。

又、皆さんがより活動しやすいような、いいアイデアや企画がありましたらどんどん出して下さい。皆さんと有意義な活動をしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



今回の記事

- ◇はじめに
- ◇今回の記事
- ◇今後の予定・お知らせ
- ◇住育の出前講座(住育教室)
- ◇研修会「いまさら聞けない太陽光発電の話」
平成23年9月15日(木)
- ◇研修会「名古屋市科学館見学とLEDを学ぶ」
平成23年10月13日(木)
- ◇60周年記念事業
平成23年11月12日(土)
記念文化講演会、記念式典、祝賀会
- ◇平成23年度全国女性建築士連絡協議会京都大会
平成24年 2月17日(金)~18日(土)
- ◇建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士協議会
平成23年度後期定例会議 三重県鈴鹿大会
平成24年2月25日(土)・26日(日)
- ◇第11回気楽にらくだ会
平成24年3月11日(日)
- ◇平成23年度女性委員会総会&川原町散策
平成24年4月28日(土)
- ◇編集後記



今後の予定・お知らせ

- ◆ 講習会「東日本大震災における地震保険の話」
平成24年6月8日(金)
- ◆ 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会 福井大会
平成24年6月23日(土)





住育の出前講座（住育教室）

■子供たちと住まいを考える

住育（小学校への出前講座）を終えて

女性委員長 飯沼 あい子

平成23年度女性委員会が公益事業として活動した「子供たちと住まいを考える（小学校出前講座）」が、財団法人建築技術教育普及センターの普及事業助成選考に選ばれました。（平成23年11月18日付け）

事業としては、未来を担う子供たちに健全な住まいについて学んでいただくための住育の授業を小学校へ出向いて受け持たせていただく事を目的として、今年度は太陽光の利用についての授業を行いました。

授業内容

（はじめに）

地震や原子力発電所の事故を受けて自然エネルギーからも電気を作れるという話

（本題）

太陽光発電のしくみについての説明・充電機でプラレールを走らせる実験・人間電池になる実

（おわりに）

学校に設置されるパネルの規模や発電量の説明

今年度初めての試みで小学校へ出かけましたが、学校により対象学年や人数が全く異なるという状況の元で、臨機応変に対応をせざるを得ませんでした。

しかし、授業を重ねるうちに委員会のメンバーも慣れてきて余裕の表情になっていきました。そして最後の学校が終ると達成感と共に少しの寂しさを覚えるまでになり、とても良い経験が出来たと思いました。

授業ではどの学校も生徒たちは熱心に聞き入っていましたし、体験実験ではとても楽しそうに取り組んでいました。特に太陽光発電に使う素材や乾電池や充電機の違い。また人間が電池になれる訳の質問もあり中身の濃いものとなりました。

この授業を踏まえて各学校では更に発展的な授業へ継続展開をされる事を伺い嬉しく思いました。

今後については「こどもたちと住まいを考える」が表題ですので、来年度以降もふさわしい授業を考えて受け持つ事ができればと思っています。

★第1回 住育の出前講座（住育教室）

日時：平成23年10月4日（火） 14:00～14:45

会場：大野町立大野北小学校

参加者：6年生46名

★第2回 住育の出前講座（住育教室）

日時：平成23年10月26日（水） 13:55～14:40

会場：大野町立大野東小学校

参加者：5年生55名

★第3回 住育の出前講座（住育教室）

日時：平成23年11月18日（金） 13:55～14:40

会場：大野町立大野小学校

参加者：4年生81名

★第4回 住育の出前講座（住育教室）

日時：平成23年11月22日（火） 10:45～11:30

会場：大野町立南小学校

参加者：6年生40名

★第5回 住育の出前講座（住育教室）

日時：平成23年11月24日（木） 14:15～15:00

会場：大野町立大野中小学校

参加者：5年生34名

★第6回 住育の出前講座（住育教室）

日時：平成23年12月1日（木） 10:45～11:30

会場：大野町立大野西小学校

参加者：4年生37名



「いまさら聞けない太陽光発電の話」

現在は一般公開されていない安八にあるソーラーパークを見学して、太陽光について学びました。

日時：平成23年 9月15日（木）
場所：安八郡安八町大森 180 番地
日程：12:50 現地集合 ソーラーパーク駐車場
13:00～ ソーラーパーク・科学館見学
14:00～ パナソニック電気さんによる座学
商品説明、太陽光発電の今後の展開等
15:00 終了

参加者：16名（一般会員10名＋女性委員6名）



（建物全景）



（集合写真）

■ソーラーパーク研修会に参加して

下川滝美

9月も半ばだということにとっても暑い日でした。太陽光の研修には最適の日だったかもしれません。施設の説明、見学後、パナソニック電気株式会社岐阜営業所の方より太陽光発電システムの説明を受けました。パネルを持ってみてくださいと言われ、男性の方は簡単に持っておられました。やはり女性では重く簡単に持てるものではありませんでした。最近家電ショップでもコーナーがあり置いてあるのですが手にしてみたのははじめてでした。新幹線からいつも見ているソーラーパークを間近でみるのは、はじめてでした。全長315m東京タワーを横にした長さだそうです。SANYOの文字がPanasonicに変わっていたのもこの時知りました。研修はパワーポイントを使って分かりやすく説明をしていただけました。太陽光発電・導入支援策、補助金と余剰電力買取制度により今後普及率が増えていくと思います。また気になる屋根に載せた時のデザインも屋根と一体となるように工夫され効率も考えて日々研究がされているようです。私が興味をもったのは駐車場に使ってあったソーラーパネルと蓄電システムについてです。研修を通して暑かったのですが太陽のありがたさを感じた一日でした。



（見学風景）



（座学の様子）



研修会 「名古屋市科学館見学

とLEDを学ぶ」

平成23年度秋の研修会は新しくなった名古屋市科学館見学とLED照明の勉強会です。

日時:平成23年10月13日(木)

勉強会「LEDを学ぶ」

会場:パナソニック電工名古屋ショールーム
(名古屋市中村区名駅南2-7-55
電話:052-583-8281)

見学会 名古屋市科学館

(名古屋市中区栄2-17-1
電話:052-201-4486)

参加者:7名

日程:10:00 現地集合

パナソニック電工 名古屋ショールーム
館内自由見学

10:30~ LDE についての勉強会

12:00~ 昼食 (第4回女性委員会)

13:30~ 名古屋市科学館見学



(名古屋市科学館 外観)

■ LEDの勉強会に参加して

長瀬八州余

10時に現地集合で、ショールームにて製品の説明を受けます。カタログで見るよりもやはり実物を見た方が当たり前ですがよくわかります。

新しい商品も沢山展示してありました。

今回はLEDについて初歩から講義してもらいます。ちまたでいろいろと聞きますがいまいちよくわからないので少しでも理解できればと思っての参加でした。

①LED照明業界の動向

②LEDの基礎

③直管形LDEランプシステムの規格及び弊社商品の紹介

④その他LED照明器具の紹介

上記の内容での講義でした。照明器具の歴史が少しわかりました。

新しい規格なのでまだまだ対応している商品が少なく選ぶに当たりバラエティーが少ないとの事でした。

今までは器具を買い、ランプは買い換えるものだという認識でしたが、LEDについては器具とランプは一体でランプがダメになった時は器具も同様にダメになっているのではないかという事です。

考え方を改める必要があります。

パナソニック電工の皆様ありがとうございました。

勉強会を終えてみんなで昼食です。



(勉強会の様子)



(ショールーム見学風景)

■ 名古屋市科学館見学

津川文江

名古屋市科学館リニューアルですごく混雑しているとは知っていましたが 平日の10月13日(木曜日)科学館を訪れる人は、減少したのではと企画しました。

しかし、まだまだ混雑です・・・

整理券により入場チケットを購入 午後2回目の1時50分よりの見学となりました。

名古屋市中区伏見に巨大な球体の建造物 これが一リニューアルオープンした内径は約35mのドームを持つ世界最大のプラネタリウムの名古屋市科学館です。料金は入館料 400円 プラネタリウム 400円 計800円です。

ドームの中央には、最新鋭のプラネタリウム投影機(ドイツカールツァイス社)がありました。白いドームの中に異様なロボットの頭のように思えました。

ゆったりとしたリクライニングの座席に座り(仰向けに寝る感じ) 男性のソフトな声で上映開始です。目の前いっぱいに広がる星空 その美しさに感激しながら満天の星空を見上げ説明を聞いていました。現在は、お月様の横でひとときわ輝く星が木星だと教わりました。

静けさの中に どこからか聞こえてくる寝息・・・お疲れ様です。

その後、5階から順番で見学しながら降りてきました。5階は、物質・エネルギーの世界 4階は、科学原理とふれあいコーナー3階は、技術のひろがり(竜巻ラボ) 2階は、不思議のひろば(お子様向け)、この施設は、子供から大人まで楽しめる場所です。



(科学館 見学の様子)



60周年記念事業

日時:平成23年11月12日(土)

記念文化講演会 13:30～

会場:長良川国際会議場 大会議室
(岐阜市長良福光2695-2
電話058-296-1200)

講師:伊東豊雄氏

テーマ:これからの建築を考える

女性委員参加 15名

記念式典 16:00～17:00

会場:岐阜都ホテル
(岐阜市長良福光2695-2
電話058-295-3100)

女性委員参加 9名

祝賀会 17:15～18:45

会場:岐阜都ホテル
女性委員参加 8名

今年度は岐阜県建築士会60周年という事で文化講演会は記念事業となりました。

会場もいつもより大きい会場となり、多くの方から申し込みをいただき、入場者は318名で多くの方が足をおはこび下さりありがとうございました。

アンケートも137枚回収でき、ご協力ありがとうございました。今後の活動の参考にさせていただきます。女性委員は文化講演会では例年同様、受付等のお手伝いをしました。



(集合写真)

■ 第31回建築文化講演会に参加して

森崎麻充

伊東豊雄先生を講師にお迎えし、『これからの建築を考える』という題で、講演をしていただきました。

まず最初に、10月26日、仙台市宮城野区の仮設住宅団地内で竣工式を迎えた、「みんなの家」について話していただきました。

先生は、避難所や仮設住宅を訪れた折に、不自由な極限の暮らしをしても、人が集まり、何らかのコミュニケーションを交わそうとする姿を見て、建築家として提供できるものを考えられたそうです。そこで、5人の建築家で「帰心の会」を結成し、仮設住宅の中に、交流の場である「みんなの家」を作ろうと考え、熊本県の支援を取り付けられました。

設計段階において住民の方達との話し合いでは、当初はみんな迷惑そうでしたが、だんだん打ち解けて、模型が出来た時には、楽しみになってきたと言ってくれたそうです。また、切妻屋根の家なので、先生らしくない単純な設計と言われますが、なによりも温かく居心地の良い家を心掛けられたそうです。

みんなの家は、集会所を縁側で結び、大きなテーブルや薪ストーブを囲んで、みんなが食事をして集うという、住民の方たちの希望も取り入れた共通のリビング ルームとなりました。住民の方達は、木の香りが良いとか、先生のデザインされた明りがよいなどと言ってくれ、また、涙して手を握る人もあり、40年の建築人生で、これほど喜ばれたことは、初めてだったそうです。今、みんなで酒を飲んでいるが、先生は今度何時来てくれるのかという電話もかかってくるそうです。

みんなの家は、被災した住民の方たちが本当に求めているものと、先生が建築家としてできる支援が一致した賜物だと思います。また、先生の温かいお人柄や、人と人とのつながりの大切さ、そして、その先に建築が存在していることを感じました。

この2月に先生は、岐阜大学医学部跡地の「つかさの町夢プロジェクト」の設計者に決定しました。これについては、伏流水を使用した輻射暖房や太陽熱など、自然力を用いてエネルギーロスをなくし、選択性に富んだフロアを持った建築であることなど、話が進むにつれて早く目にしたいと、期待に胸が膨らみました。

先生は、自然に畏敬の念を持たなければならないと考え、自然環境と人間を出来る限り融和させることを心掛けて、設計されているそうです。たとえば、多摩美大の図書館の床は、敷地と同じ1/20の勾配を残すことで、

人は自然の中と同じように動物的な感覚が発揮されると共に、方向性が出来るということに驚きました。他にも数々の作品について解説していただきましたが、どれも自然環境を重視しており、大変感心させられました。

今回の講演では、建築本来のあるべき姿を、自然と人間の両面から教えて頂き、大変有意義なものとなりました。



(受付の様子)



(講演会の様子)

■ 60周年記念式典レポート

堀 暁美

平成23年11月12日13時30分より岐阜県建築士会創立60周年記念式典が、岐阜都ホテルにて行われました。

発足当時は130人ほどの会員でしたが、現在は1500人の会と成長しました。

これには、先輩方のご尽力の賜物であるとおもいました。しかしながら現在は厳しい経済・社会状況の中に置かれていることも事実です。その中で私たちは、活性化をめざし街づくりに貢献し、建築士の存在をアピールしていくことの大切さを藤井会長がお話されました。

■ 祝賀会報告

山田妙子

創立60周年式典を無事終え、岐阜都ホテルのボールルーム会場へ移動しました。式典の張りつめた空気から和やかで華やかな雰囲気になりました。

親父バンドの演奏もあり、会員みなさんと懐かしい名曲と一緒に歌って会場が盛り上がりました。

今回、デザートに60周年のお祝いデザートを用意して頂き、感謝しています。



平成23年度全国女性建築士連

絡協議会 京都大会

日時:平成24年 2月17日(金)~18日(土)

会場:

●全国女性委員長会議/開会式/基調講演

みやこめっせ

(京都市左京区岡崎成勝寺町9番地1)

●交流会

がんこ 高瀬川二条苑

(京都市中京区木屋町通二条下ル東生洲町484-6)

●フィールドワーク

京都市内各所

●分科会/全体会/閉会式

ウイングス京都

(京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262)

テーマ:『景観まちづくりからコミュニティの再構築へ～
京都で考える 日本のまちと暮らし～』

参加者:6名

1日目 2月17日(金)

13:00~14:45 全国女性委員長会議

15:00~15:15 開会式

15:15~16:45

東日本大震災の現状報告 仮設住宅の現状と課題

(社)岩手県建築士会

(社)宮城県建築士会

(社)福島県建築士会

16:45~18:00 基調講演

『京都の景観から考える地域のまちづくり』

講師:高田光雄氏

(京都大学大学院工学研究科教授(社)京都府建築士
会副会長)

18:00~18:15 レクチャー・オブ・フィールドワーク

19:00~21:00 交流会

2日目 2月18日(土)

~12:30 フィールドワーク

A-1 : 秦家と修徳学区

~景観まちづくりの先進事例

A-2: 伏見 ~界わい景観整備地区の景観まちづくり

A-3: 京都駅周辺 ~景観論争の歴史と未来

B : 大山崎 ~環境共生住宅の原点「聴竹居」に学ぶ

C : 堀川東 ~京に受け継ぐ伝統の技

D : 三条通 ~近代建築のさまざまな再生方法と活用

E-1: 祇園町南側地区 ~伝統建造物群保存地区のまちづくり

E-2: 姉小路界わい ~まちなみ整備と暮らしを守る

E-3: 清水学区 ~歴史的まちなみを守る防災システム

F : 明倫学区 ~明倫学区の子どもの暮らし今・昔

G : 六原学区 ~地域の高齢化・空き家対策への新たな取り組み

13:00~15:00 分科会&各コース意見交換

15:15~16:30 全体会 閉会式

■ 全建女 京都大会を振り返って

東海北陸ブロック運営委員長 河内美代子

東海北陸ブロック選出の連合会女性委員として、今回、初めて全建女に参加することとなりました。勝手にわからない中、同じようにブロック選出で初めて全建女に関わる人たちと連絡を取りあい協力しながら、2月17・18日の本番を迎えました。

それぞれの委員が色々な役割を担当し、ブロック選出の私たちは分科会をそれぞれ一つ担当することとなり、私は「高齢社会」を任せられました。今回の特徴としてフィールドワークがあり、事例発表と意見交換が主体のいつもの進め方とは違って、戸惑いました。さらにフィールドワークに関しては本来の7月開催を目指して、京都の女性・青年がずっと温めてきた構想であり、むしろ事例発表は想定されていませんでした。

京都の担当の方とは、直接お会いしたり、メールでやり取りしながら、準備を進めましたが、どうしてもフィールドワークが主体となりがちでした。いつもの全建女では委員同士の活動紹介や意見交換の時間がとても大事であり、各地の情報を得たり、今後の活動の参考とされたりと、参加満足度にも影響する大事な時間だと思っていましたし、その時間を十分に取りたいと思っていました。

分科会によっては、事例発表無しでフィールドワークだけということもありましたが、私の分科会では、岡山県さんの「手すりの会」の紹介発表の希望がありました。岡山県さんとも、連絡を取りながら、なんとか「住み続けたい、住み続けるためには、...地域コミュニティの再

生」という着地点につなげられるように必死で迎えた当日でした。

しかも、参加希望の蓋を開けたら、なんと、私の分科会によりによって、藤本連合会会長と三井所副会長のお二人が参加とわかり、ビックリするやら、緊張するやら。お二人もお互いにご存じなく、ビックリされていましたけど。

そんなこんなで、終わった全建女でしたが、翌日には、娘の結婚式を控え、今週末にはブロックの大会もありと、まだ分科会の報告書も書きかけの状態ですが、一先ずは皆さんのご協力のお蔭で、何とか無事に終えられたと思います。ありがとうございました。

■ 全国女性部会長(委員長)会議報告

飯沼 あい子

平成24年2月17日午後1時より、みやこめっせ「大会議室」での標記会議に出席しました。

まず平成23年度の日本建築士連合会の会務報告がありました。

主な報告として

- ・公益法人移行のための手続きが進んでおり今年度末の認定をめざしている。
 - ・建築士定期講習については平成24年3月末で一順するが来年度から12,900円に引き下げるようになった。
 - ・地域貢献センターへの活動助成を平成23年度をもって終了し、今後は地域実践活動支援のための新法人の検討に入った。
 - ・東日本大震災に対する支援活動を行った。又被災地へは全国より1540万円の見舞金が被災7県に送られた。
 - ・平成24年度第55回建築士全国大会が10月19日茨城県文化センター他で行われる。
- 次に協議事項として平成23年度全国女性建築士連絡協議会アピールについての内容の確認がなされました。又、平成24年度の協議会は開催されず、平成25年度に行われるが開催希望県があれば立候補して欲しいとの事になった。ただ、予算は厳しく今回の京都においても青年の協力を得て本会や近畿ブロックの援助金を受けて開催できたとの報告も受けた。

■ 「東日本大震災の現状報告

仮設住宅の現状と課題」を聞いて

高野栄子

私は今回、はじめて全建女に参加しました。全国から建築士という仕事をしている女性が500名近くも集まって開かれる会は、とても有意義なひとときでした。

東日本大震災の現状報告と仮設住宅の現状と課題は、一言で言い表せないようなお話でした。東北3県の女性委員会の方が順に、震災直後の現状や自分たちの活動内容、職業柄一番興味をひく、仮設住宅について話されました。

宮城、岩手の両県は沿岸部の津波被害の事が大きくとりあげられていますが、実は内陸部での建物被害も甚大で、みなさんは自転車や徒歩で応急危険度判定に走り回られてご苦労された事、岩手は「花咲プロジェクト」宮城は「ころはひとつ作戦」という活動をされて復興復旧にむけてがんばっていられることを知りました。

仮設住宅に関する報告は、各報道で知ってはいたしましたが、実際に経験されている方の生の声を聞くとその大変さが実感出来ました。一番気になったのは、仮設住宅の格差という事です。数が多く全て一律に出来なかった事は知っていますが、鉄骨のプレハブあり、木造有り、2.3階建てありといろいろ出来てくるとその居住性に違い出てきていることに疑問を感じました。被災されて大変な思いをされている方が少しでも快適にくらせることを願いました。

最後に一番心に残った事は、やはり福島の方々のお話でした。「原発の事故は人災です」と力強く言われたこと、今もそこに暮らす子供達の事など、私も子供を持つ母親として、とてもよく気持ちがわかりました。話されている方が感極まって涙声になると、私も一緒に涙がでました。改めてなぜこんな事になっているのか、これからどうしたらいいのか、私なりに考えることが出来るともいい機会になりました。

時間がなく慌ただしい京都でしたが、この方達の話を通じて直接聞かせていただいただけでも十分意義のある大会でした。災害というものに対する思いが変わった気がしました。

報道ではなく実際の経験のお話は心に響きました。出来ることならいつか実際に東北3県を訪れてみたいと思いました。



(報告会の様子)

■ 基調講演報告

「京都の景観から考える地域のまちづくり」

の講演を聞いて

宇佐美 泉

東日本大震災の現状報告のあと、京都大学大学院工学研究科教授の高田光雄先生の話聞いた。

京都は、景観問題がまちづくりを考える上で、最重要課題となってきたこと。景観問題は、史跡・名勝のような特別な場所を取り巻くものと、人々が暮らす一般市街地の景観とがあり、後者の方がまちづくりの課題として議論されてきた。

京都には古くから京町家があり、みちの両側のいえが辻から辻まで集まって「町(ちょう)」というコミュニティーの単位をつくる「両側町」というしくみで作られ、現在も管理・運営の伝統は継承されている。

さらに、明治時代になり64の番組(町組)小学校を起源とする「元学区(もとがっく)」が創設され、町の次の規模のコミュニティーの単位となっている。町家が集まり「町」をつくり、「町」が集まり「元学区」をつくる。この中でルールに従い生活が営まれている。

と同時に、その景観の保全や再生がなされてきた。

又、京都市は古くから景観保全が図られてきた。都市計画法に基づく風致地区の指定に始まり、屋外広告物条例・風致地区条例・市街地景観条例・伝統的建造物群保存地区条例等様々な景観政策が行われ、他の都市の景観政策モデルともなってきた。

それにも関わらず、何度となく論争や紛争が繰り返された。京都タワー論争や京都のマンション論争などがあるが、近年では、町家などの既存住宅住民対マンションデベロッパーの戦いがあるが、本質的な問題は既存コミュニティーが解体する(保たれない)という危機。こうした状況の中で、異なる価値観をもった住民たちが「自分たちのまちは、自分たちで守り育てる」という取り組みが始められた。

1997年に、「京都市景観・まちづくりセンター」が設立され、住民・行政・事業者が連携してパートナーシップを組みながら暮らしのルールをつくりあげていく動きが生まれた。

その後にも起こったマンション紛争にも、地域住民とデベロッパーが対立しあうのではなく、価値観の違いを認めて共有＝共生していこう。町の将来像について、十分に議論しよう。しっかりとしたルールを地域の人々と

地域以外の人々でつくっていこう。という想いになっていき、現在に至っている。

という内容だった。この美しい古都・京都が、様々な問題とぶつかりその都度最善策を模索しながら歩いてきて、今の京都があるんだということがよくわかった。

最後に、何度来ても京都はいい！と改めて思った。

■ 交流会報告

飯沼 あい子

がんこ高瀬川二条苑にて交流会が行なわれました。

ここは商人 角倉了以(すみのくらしりょうい)の別邸として造営されましたが、明治になって山県有朋の別邸「第二無鄰庵(むりんあん)」となり、その後第三代 日本銀行総裁川田小一郎の別邸、次に阿倍市太郎と移り、現在は大岩邸となりがんこ高瀬川二条苑として使われているという事です。由緒ある建物と広大な庭園で夜でなければゆっくり散策できたのにと残念でした。

次の日の分科会のフィールドワークに合わせて参加者も別れており、G分科会参加の河内さん、下川さんと共に蔵(もちろん部屋として改装されていましたが)で食事を楽しみました。他県の方々とも交流が出来て良い取り組みだと思いました。

後半には舞妓さん登場のサプライズもあり(残念ながら踊りは見られませんでした)、写真撮影もできて、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。



(舞妓さんと芸妓さんが各部屋を回ってくださり記念撮影をしました。)



(交流会でのお食事)

■ 二日目 分科会報告

A分科会(景観まちづくり)に参加して

長瀬八州余

A分科会は全体の括りとしては景観まちづくりですが、フィールドワーク用に3班に分かれています。

A-1 秦家と修徳学区～景観まちづくりの先進事例
A-2 伏見 ～界わい景観整備地区の景観まちづくり
A-3 京都駅周辺 ～景観論争の歴史と未来
その中で私たち岐阜県からの参加者のうち2名は、A-3に参加しました。

A-3のコースルートは、京都駅(屋上庭園)→名勝渉成園(しょうせいえん)→東本願寺 御影堂、阿弥陀堂修復現場、諸殿拝観→昼食(ホテルカンラ京都)→分科会会場(ウイングス京都)です。

昨晩から雪が降りはじめ、朝にはうっすらと積もっていました。

京都としては雪が降るのは珍しいということでした。

京都中央郵便局前に8時15分の集会で約40名が集まりました。3つのグループに分けて京都駅にあるエスカレーターに乗って屋上庭園に向かいますが、雪の為に屋上は閉鎖でした。屋上庭園から市中を眺めて今の状態を考える予定でしたが、下の階の隙間から眺めるだけで全体を見ることができませんでした。



(雪の為に閉鎖になっています。)



(京都駅での見学の様子 京都の人は紫色の服を着ています。)

足下を気にしながら、京都駅から北へ徒歩10分ほどのところにある国の名勝「渉成園」へ向かいます。

「渉成園」は、東本願寺の飛地別邸であり、庭園は東山を借景として造られ、東側に「印月池(いんげつち)」、西側に建物を配した池泉回遊式です。

眺望景観論争をきっかけに京都市では優れた展望景観や借景の保全・創出を図るため、1997年(平成19年)「京都市眺望景観創生条例」を制定し、その結果、38ヶ所の地域が選定されました。渉成園はこれに基づいて近景デザイン保全地区に指定され、庭園から500mも区域においては、眺めを阻害してはならないという建築物や工作物のデザイン基準が定められています。

雪景色を見ながら、説明を聞きながら見学をします。女性委員の担当の方はここへは6～7回ほど下見に来て見えたということです。下準備に費やしたご苦労が大変だったと思いました。



(渉成園の見学風景 雪景色がきれいです。)

次に東本願寺に向かいます。ここでは東本願寺から2名、工事現場から1名の方が説明に付いてくださいました。

非公開の御影堂門の2階に上がり内部を見学をしました。次に約6年かけて改修が終わった御影堂でお参りをして、今年から改修工事が始まっている阿弥陀堂の修復現場の見学です。御影堂で使用していた素屋根を転用して阿弥陀堂に使用できたので、工期短く、コストも少し安くなったということでした。

展示コーナーがあったので、どうしてですかと尋ねたところ、この工事は檀家さんの御寄進で成り立っているのだから、寄進者に対して報告義務があるのでこのようにコーナーを設けていますということでした。全国から信徒の方が沢山みえてきているということです。

この後、非公開の大寝殿・大玄関、宮御殿、白書院・能舞台等を見学し、当初予定には入っていなかった高松伸設計の視聴覚ホールを見学して昼食になりました。



(宮御殿の朱い畳縁)



(高松伸設計の地下ホール 視聴覚ホールとして使用されている)



(阿弥陀堂修復見学 貸し出しようヘルメットを着用して見学)



(きれいになった御影堂)

雰囲気の良いレストランでしたが、時間が限られているので、いつもは一品ずつ出てくる食事がもうすでにテーブルに並んでいました。でも美味しかったです。

タクシー移動で分科会会場に向かいます。

A-1、A-2、A-3合同で分科会が行われます。前日の基調講演で講師をされた高田光雄先生が司会をして話を進められました。

まずは各々のコースの説明で、職住共存地区である修徳学区を歩くA-1コースは、一般市街地での先進的は景観まちづくりの事例を、伏見の旧市街地を歩くA-2コースでは、京都市の新景観条例の果たす役割を、京都での景観論争の発端にあたる京都駅周辺を歩くA-3コースでは総論としての京都の景観政策を視察したという説明で、3コースがセットになって一つの流れになっているということでした。

参加者全員に、キーワードを3つ書いて、見学で感じたことを書いてくださいと、昼食時に用紙を渡されていました。その用紙をもとにして分科会は進められました。皆さんいろいろと意見を述べられましたが、その中で一番印象に残ったのが、「良いとか悪いとかは別として、京都タワーも時間が経過すれば馴染んでしまう物なのだ」という意見でした。慣れということは恐ろしいと思いますし、生活するということはそういうことなのだを再確認しました。

例年よりも分科会に時間が割かれていたと思いますが、やはり時間が少なかったです。

G 分科会(テーマ:高齢社会)に参加して

下川 滝美

今年は京都府建築士会が準備していただいたフィールドワークと岡山県建築士会の事例発表「手すりの会 紹介～いつまでも我が家で暮らしたい～」の二本立てでした。

フィールドワークは東山区の六原学区で高齢化と空家対策への取組み(住み続けたいまちづくりを目指す)でした。

今回の分科会は河内運営委員長が司会を務められて京都の方々と私はアシスタントという立場での参加となりました。12月頃より準備をされて本当にお疲れ様でした。フィールドワークという形式が初めてだったこともあり戸惑いもありましたが最近まちづくり委員会で県内の古い町並みを見ているせいかとても楽しく参加をさせて頂きました。

この地区は高齢化率が32.3%持家と借家は半々の地域です。空家は全体の2割ということで人口も減少しているようです。地域の取組みを事前に説明していただいたから町歩きをしました。

1件だけを除いて全てが空家という路地もありました。残っている家の方が、周りが空家と思われないように空家の前にも花を飾っているという工夫。

古い京町屋が「京町屋まちづくりファンドの事業」で再生され保存されて生活を続けている様子なども見学をしました。「あじき路地」もまた築100年ほどの町屋長屋ですが大改装をして「ものづくりなどを頑張っている若者」が大家さんをお母さんと呼ぶ職人の住む町屋長屋として再生されました。岡山県の事例も同じく「住み続けたい」をキーワードとした発表でした。

高齢になっても住み続けられるためには・・・ということをいろんな視点から考えることができました。



(空き家が並ぶ路地)



(京町屋まちづくりファンド事業で再生された店舗)



建築士会東海北陸ブロック会

女性建築士協議会

平成23年度後期定例会議

三重県鈴鹿大会

日時:平成24年2月25日(土)・26日(日)
 会場:鈴鹿サーキット (鈴鹿市稻生町7992)
 テーマ:

『がんばろう日本！がんばろう建築士！！
 復興・防災・エコエネルギー！
 それぞれの未来に向かって！』

参加者:6名

■1日目 2月25日(土)

- 受付 12:00～13:00
- 開会式 13:00～13:30
- 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会
平成23年度定例会議(後期鈴鹿会議) 13:40～15:10
- 基調講演 15:20～16:20
東日本大震災の報告
(東北ブロック 岩手・宮崎・福島)
- 分科会 16:40～18:10
 - 第一分科会: (ブロック青年協議会担当)
「エコエネルギーについてみんなで考えよう！」
 - 第二分科会: (ブロック女性協議会担当)
「耐震についてみんなで考えよう」
 - 第三分科会: (三重県青年委員会担)
「防災についてみんなで考えよう！」
- 懇親会 19:00～20:30

■2日目 2月26日(日)

- 見学会 9:00～11:20
鈴鹿サーキット施設見学
- 閉会式 11:30～12:00



(集合写真)

■ 平成23年度後期定例会議 報告

飯沼 あい子

平成24年2月25日午後1時20分より鈴鹿サーキット内ホテル別館アイリス18研修会場にて開催されました。

三重県建築士会の瀬川会長がこの会議に同席され挨拶をされました。地元のお菓子とお茶が女性らしいとお褒めをいただき、和やかに始まりました。

各県からの報告が今回はパワーポイント写真を見ながら行なわれ、わかり易いものとなりました。その後運営委員長の河内さんより、連合会・青年会の報告の後審議事項に入り平成23年度前期富山大会会議議事録・平成24年度事業計画案・同予算案・女性協議会役員がそれぞれ承認されました。

次に協議事項に入り、定例会議について前期は運営委員会議とし今年度同様ランチは各自負担とする。又各県共に女性委員会(部会)への活動支援費として各県へ2万円づつ助成をして用途について報告する事が確認されました。公益法人の県の場合の支出の根拠やブロック会議での発表のあり方など今後詰めていく課題もありますが、これらは事前のスカイプ会議で、ある程度出ていましたので、会議はスムーズに進みました。最後に、岐阜の河内運営委員長さんからバトンタッチをされることになる富山の山中さんの挨拶で時間通りに終わりました。



(会議の様子)

■ 基調報告会を聞いて

宇佐美 泉

女性協議会終了後、開会式をした場所に再び戻り、基調報告会が開催された。

東日本大震災の報告で、岩手・宮城・福島各県の建築士会の方をお招きし話を聞いた。最初は岩手県の建築士会の方からで、リアス式海岸という地形が、地震による津波を溯上させ被害を大きくし、特に海岸線沿いはひどいことを話された。

次に現況として、仮設住宅についての話になり、その仕様が統一されていないので仮設住宅により差があること。特に断熱については、されていない建物もあるようで住民の不満があるということだった。今後の為に、仮設住宅の標準仕様書を作成すべきということだった。又、避難所はプライバシーがなく、夏は暑く冬は寒い。今後公民館等(避難所となる建物)は、高台に作るべきと報告された。

次に、宮城県の方の報告で、やはり女川町や石巻市といった海岸線沿いの被害がひどいこと。又内陸部の仙台市内は、住宅被害(瓦の落下・外壁の落下)がひどいとのことだった。仮設住宅は47,000戸建設されたが、プレハブ業界が中心となり進められ、建築士会及び建築士事務所協会は後追い状態ですぐには活動出来なかったようで、建築・土木といった垣根を取り払い相互に協力していくことが大切で、相互支援を明確にして今後発生しうる災害にそなえてほしいと話された。

福島県は、津波による被害もさることながら、原発事故による被害が甚大でまだまだ先が見えない状態であることを話された。そして応急仮設住宅については、岩手県と同様で、その仕様に差があること。結露がひどく、施工がずさん等々住民のクレームが続出たそうだ。今後は、応急仮設住宅の問題解決の提案を早急に行い、行政に提案していきたいとのことだった。最後に、ブロック会の方からの報告があった。現地の被害状況を目の当たりにし、まだまだ復興には時間がかかるので継続的に支援をしていきたいと話された。



(報告会の様子)

■ 分科会報告

第1分科会

「エコエネルギーについてみんなで考えよう！」に参加して

津川 文江

今回は、鈴鹿サーキット(Honda)という場所で開催されたので、ホンダの太陽光発電について講演を聞きました。

ホンダソルテックは、銅(Copper) インジウム(Indium)ガリウム(Gallium)セレン(Selenium)を原料とした化合物半導体を発電層に使った太陽電池で、この原料の頭文字をとってCIGS 薄膜太陽電池と呼んでいます。シリコンを使わず、発電層を薄い膜状の半導体とすることで限りある資源の省資源化、製造時の消費エネルギーや排出CO2を少なくし環境にやさしく製造されているそうです。

又、縦長のセル構造により、一部分が影におおわれた場合でも発電が大幅に低下しにくい部分影に強い構造だそうです。さらに光の感度が優れ、曇りの日の太陽光でも反応しやすいそうです。

太陽電池は、熱をもつと発電効率が下がってしまう特性があるそうです。しかし、このCIGS 薄膜太陽電池は、温度上昇時の発電量の低下が結晶系シリコン太陽電池より少ないそうです。

このCIGS 太陽光電池のデメリットとして、変換効率がシリコン系より低いため設置面積が多く必要になるとのことでした。

その後、現物展示の各ブースを回って体験学習をおこないました。

エコ瓦では、太陽光にみたてた投光機をカラーベストの屋根とエコ瓦の屋根にあてて屋根裏温度を比較する実物展示がありました。手を屋根裏に入れてみると、エコ瓦の良さが実感できました。

また、太陽光発電設置の施工例の様子や電気系統の実物展示、ホンダガスエンジンコージェネレーションユニット(ガスで発電、その時に出る熱でお湯も沸かせて暖房も出来る。)のしくみについて展示してありました。各ブースの持ち時間が少しかったので、内容が十分理解できず残念でした。各々の内容を、もっと時間をかけて聴いてみたかったです。

第2分科会

「耐震についてみんなで考えよう」に参加して

飯沼 あい子

この分科会では、富山県建築士会 女性部会の活動報告を聞きました。

まず富山の気候風土と建物の特色が紹介され、栃波平野の散居村は「カニヨ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた家が点在し、日本の農村の原風景といわれているということです。伝統的な農家は「アズマダチ」と呼ばれる東向きの切り妻となっていて、ワクノウチづくりといわれる貫と土壁で耐力を持たせる柔構造になっているのが特徴だそうです。

現存し伝統的建築物となっている「となみ散居村ミュージアム」「遊心亭」「八尾町福島1区コミュニティーセンター」が紹介されました。

次に木構造のはなしとして、射水市にある木材研究所での勉強会の報告をされました。

ここでは県産材等の需要拡大を図る技術開発と安全・快適で環境に優しい木造建築物の開発・木質資源の循環利用技術の開発を柱に技術相談・試験分析・木材情報の発信をされている所だそうです。又、木構造の基礎知識セミナー・長期優良住宅セミナーでの勉強会の様子も紹介されました。

最後に東北(宮城県石巻市 女川地区)へボランティアとして参加された様子を紹介されました。まず現地を見たい、何かしたいという思いで5名が参加されました。費用については、ボランティアセンターと建築士会、更に自己負担で行かれ日本海沿いに新潟まで行き石巻に。そして2日間七ヶ浜町のボランティアセンターで品物の分配などをされたそうです。直接現地へ行かれた方々は私の想像では計り知れない思いを持って帰って来られたと思います。この震災では被害に遭われた範囲があまりにも広いため多分復興にも温度差が出るのでしょうか、今後も長期に涉った支援が必要なのだと感じました。

第3分科会

「防災についてみんなで考えよう」

下川 滝美

※参照:災害図上訓練 DIG マニュアル

<http://www.e-dig.net/020301.html>

分科会には長瀬さんと二人で参加をしました。

南部美智代氏による災害図上訓練「DIG」を用いた防災訓練を通して防災について考えました。

南部氏はNPO 法人災害ボランティアネットワーク理事長で阪神大震災から被災地にてボランティア活動をされています。最近では岩手県や三重県紀宝町で起きた台風水害へのボランティア活動をされてまたこの研修の次の日紀宝町でぜんざいの炊き出しに行かれるそうです。見た目は普通のおばちゃんですが細やかな視点と、するどい視線に研修会場は圧倒されていました。

経験って素晴らしいと思いました。

長年の災害ボランティアの経験から図上での災害訓練ですが的確に、ハードだけでなくソフト面での訓練もさせて頂いた気がします。

私は地域で高齢者とかかわりが多いのでこの分科会を希望しました。

「地域で広めて下さい。」という南部さんの言葉に、早速今日は民生委員さんとふれあいサロンで

「プチ DIG」をやろうと決めてきました。

京都大会に引き続きとてもよい研修会に参加させていただいて感謝しています。

地域にそして建築士の仲間に伝えて行きたいと思っています。



(立ってマイクを持っている方が講師の南部さんです。)



(川、海、線路、国道に色を塗り要援護者をランダムに置いてどうやって避難するかを楽しく訓練しました。)

■ 懇親会に参加して

津川文江

懇親会には、私と河内さん、下川さん、長瀬さんの4人が参加しました。

シャトルバスにて会場を移動し、鈴鹿サーキット ピットビルのホスピタリティラウンジにて、19時過ぎより開催されました。広く ゆったりとした会場でした。

また、各テーブルの席はくじ引きで決まりましたが、偶然 河内さんと同じテーブルになりました。余興として、郷土芸能四日市諏訪太鼓の樂鼓隊が和太鼓の勇壮な演奏をきかせてくれました。

懇親会后、部屋のお風呂ではなく別棟の天然温泉”クア・ガーデン”へ行きお風呂に入ります。

入浴後、大浴槽のラウンジで有志が集まり、自販機で飲み物を買って、車座になっていろいろなお話をしました。気がつくと24時を回っていました。

ブロック会後期のお泊まりでは、いろいろな県の女性建築士の方と情報交換ができるのが楽しみです。



(懇親会の様子)



(お風呂後のラウンジにて交流の様子)

■ 二日目

鈴鹿サーキットコース見学会に参加して

長瀬 八州余

朝、チェックアウト後、ホテルから開園前の遊園地を通り抜けて、朝食会場のセンターハウスへ向かいます。朝食はホットドッグでした。



(遊園地を通り抜けます)



(朝食風景)

(朝食のホットドッグ)

朝食後、ピットビル内のホスピタリティラウンジに集合して「モータースポーツ進化設備について」鈴鹿サーキット取締役樽井良司氏より講話を聞きます。



(講話の様子)

鈴鹿サーキットの成り立ちから歴史、何を狙っているのか、2009年の全面改修について等お話を聞きました。

ホンダの鈴鹿工場の福利厚生施設を作るためだった所に本田宗一郎氏が本格的なレーシングコースが欲しいと言うことで1961年に作られたのが始まりで、今は四つの分野を網羅した施設郡になっています。

1、モータースポーツ

2、遊園地(モートピア)・・・親子で楽しみながら学ぶ、共感できる。

3、ホテル

4、交通教育・・・危険を安全に体験して備える。

遊園地のコンセプトはファミリーで楽しめる、自分で操縦する楽しみ、エンジンを楽しむ事で未来の自動車産業の担い手になってもらうということで、自分で操縦する乗り物が中心になっていると説明でした。

交通教育については、初期の頃は警察の白バイの訓練もやっていたということです。

モータースポーツではサーキット会場の安全性、快適性、利便性向上のため2009年に全面改修を行いました。既存の建物を取り壊した後にリーマンショックだったので、工事は大変でした。決められた期間に仕上げなくてはならず、出来るだけ工場で仕上げてきて現場で組み立てるだけにすることで工事の無駄をなくすようにしました。ピットビルは2.3パーセントの勾配に建っているその勾配をどう処理するかが問題でした。

今回参加されている三重県の方たちはこの現場に関わった人が結構いるようでした。



(勾配処理の様子)

講話の後、4グループに分かれてサーキット内を見学です。

私たちのグループは最初にメディカルセンターへ向かいます。ここは一般の見学コースでは見ることは出来ませんという事でした。レースの時は医者と看護師が待機して国際大会ではヘリポートにヘリも待機しています。

救急車は常時2台待機しています。レントゲン室、全身火傷のための部屋もあります。自動車レースは事故が起きると重傷になりますが、数は多くありません、しかし二輪のレースは怪我が多く、自転車に到っては重傷にはなりません、本当に怪我人の数が多いですというお話でした。



(メディカルセンターの内部)

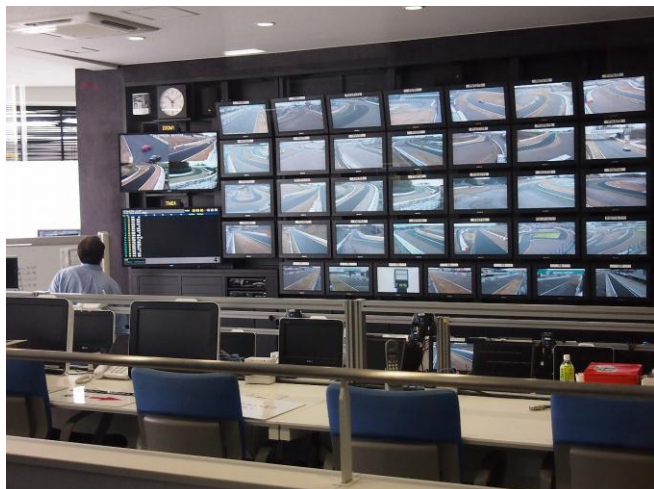
次にコントロールルームに向かいます。その道中でF1の最高責任者が来た時の部屋をみせてもらいました。皆さん興味津々で写真を撮っていました。



(VIP 控え室)

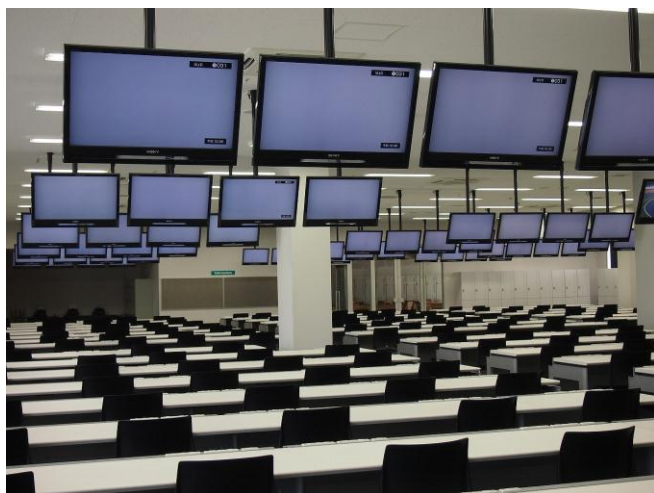
コントロールルームには32台の固定カメラから送られてくる映像を見て路面状況を把握してレースの運営を進めるということです。案内係の方が一般の見学の時はコ

ントロールルームの方により興味が沸くのに、皆さんは先ほどのVIPの控え室の方に興味が引かれるのですねと言っていました。私もコントロールルームはすごいなあと思いましたが、興味があつたのはVIPの控え室でした。コントロールルームのハードは5年で古くなりますとの説明でした。



(コントロールルーム内部)

メディアセンターは報道関係者やライターが詰めます、F1の時は400名ぐらいの人が世界各国から集まります。



(メディアセンター内部)

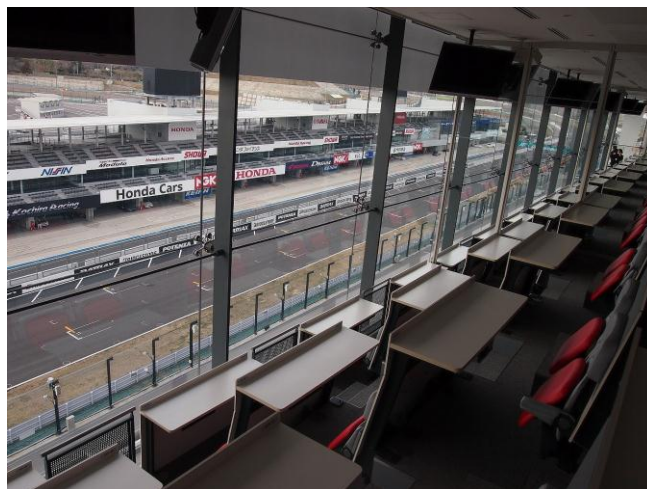


(メディアセンターに設置されていたゴミ箱 分別がなされています)

展望VIPスイートへ向かいます。エレベーターに乗って5階へ行きます。

F1の時は1人3日間で30万円の部屋になります。

今回はブライダルの説明会がおこなわれていました。見晴らしの良い部屋でサーキット会場が一望でき遠くに海も見ることが出来ました。



(5階のVIPスイートよりサーキットコースを見る)

講話を聞いた部屋に戻って閉会式です。



(閉会式の様子 新旧のブロック青年、女性委員長の挨拶)

担当県の三重県の皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

鈴鹿サーキットの皆様ありがとうございました。

楽しく有意義な二日間を過ごすことが出来ました。



第11回気楽にらくだ会

日時:平成24年3月11日(日)
会場:中山道 鶉沼宿 & 太田宿
参加者:11名



(集合写真)



(昼食会での交流の様子)

日程:

10:15 集合一受付
10:30 挨拶一日程説明
10:45～ ガイドさんによる街歩き 鶉沼宿を散策
11:45～ 昼食 一福茶屋「花の木」

電話 058-385-2958

(見学場所近くにある宿場町の面影を残す建物のお店です。)

13:30～中山道 太田宿散策 「太田宿中山道会館」見学

まちづくり委員会主催「みの・ひだ文化財専門家育成研修」の第6回研修に午前中だけ参加させていただき鶉沼宿を見学しました。昼食会では藤井会長も参加してください、まちづくり委員会の方とも交流をしました。

中山道 鶉沼宿

鶉沼宿は、江戸時代に整備された中山道の美濃十六宿の一つです。

当時の面影を残す家屋に加え、平成20年の町屋館オープンを皮ぎりに整備が進み、平成22年には脇本陣が完成しました。

大安寺川にかかる橋や町屋館には芭蕉が投宿した折に詠んだ句碑が建てられています。

中山道 太田宿

中山道69次の51番目の宿場、美濃十六宿の中央にある太田宿。太田宿には、中山道三大難所の一つに数えられた「[太田の渡し](#)」があり、尾張藩の代官所もあつたことから、政治・経済・文化の中心地として栄えました。現在も[古い町並み](#)や[枳形](#)などが残り、[宿場情緒](#)を楽しみながら散策できます。

■ 中山道 鶉沼宿を訪ねて

森崎麻充

今回の「気楽にらくだ会」は、中山道の宿場町鶉沼を訪ねました。

春の柔らかな陽射しを受けながら、ボランティアガイドの方に導かれて街並みを巡りました。

中山道鶉沼宿町屋館は、濃尾震災後に建てられた旅籠で、大戸や格子戸などの外観が当時を偲ばせておりました。中に入りますと、竈や箱階段などの今では珍しかった道具や調度品があり、広々とした畳敷きと合わせて、とても落ち着いた雰囲気でした。

また、中山道鶉沼宿脇本陣は、脇本陣であった坂井家を復元した建物で、うだつが上がり、上段の間などの至る所で、格式が感じられました。また、松尾芭蕉が三度宿泊し、その際に詠み、自ら刻んだとされる句碑もありました。

整備された町並みの中で、茗荷屋梅田家は、濃尾震災にも倒壊を免れ、江戸時代の旅籠の姿を今に伝えるとともに、その傍らの水路が、風情ある情緒を醸し出していました。

1時間半ほどの見学を終えた後は、近くの一福茶屋花の木で昼食となりました。釜飯やたくさんの小鉢料理などをおいしくいただきながら、メンバーの近況など語り合う楽しいひとときでした。

鶉沼宿の様々な歴史に触れながら、時間の過ぎる速さに驚きつつ、次の訪問地、太田宿へと車は進みました。



(受付風景 オレンジの半被を着ている人がボランティアガイドさんです。2名で案内をしてくださいました。)



(電線を地中に埋設してすっきりとした町並みになりました。)



(旧大垣城鉄門前にて説明を受ける
(昼食の釜飯です。美味しかったです。)

■ 「気楽にらくだ会 大田宿編」

伊藤麻子

おいしい釜飯の昼食のあと、大田宿に行きました。こちらも特徴があつて、味わい深いですが、鶴沼宿と違い、空き家が多く少しさびしい雰囲気です。

黒く塗られた板壁と、うだつの漆喰の白のコントラストが美しい。

町中を通り、次は大田の渡しのあつた場所から河川敷をみんなで歩きました。

向こう岸の竹林がぼんやり霞んで見えて、のどかな風景が広がっています。

ただ、ずいぶん川の流が速いようで、中山道の中でも難所のひとつに数えられたという話も合点しました。

いいお天気で、あつたかくて梅も咲いていてやっぱり高山とは違います。(帰ったら積雪でした)

同じ職種の仲間、先輩なので、悩みや考え方も少し似ていて、久しぶりに会って話すと、とてもリフレッシュできます。

お茶を飲みながら、設計事務所の業務報告のことなど話題になりましたが、

なんといっても、3月11日は大震災のあつた日から丸一年だったので、地震の起きた時刻と一緒に黙祷し、被災の状況、貢献活動など話しました。



(太田宿での見学風景)



(太田宿中山道会館内にある喫茶店にて交流会)



平成23年度女性委員会総会& 河原町散策

日 時:平成24年4月28日(土)

11:30~14:00

会 場:十八楼レストラン 時季の蔵

(岐阜市湊町10番地)

参加者:10名

■ 河原町散策と平成23年度総会報告

長瀬八州余

平成24年4月28日(土)10時に十八楼駐車場に集合して、市民ボランティアの方に案内をお願いして説明を受けながら河原町の散策をおこないました。

岐阜市内のメイン道路で東西に伸びている道路は岐阜城に向かっており戦国時代の道路で、南北に伸びている道路は奉行所と尾張藩を結ぶ道路で江戸時代の道路だということです。道路でも時代背景が残っているのだということがわかりました。



(古いお宅拝見)

河原町周辺は濃尾地震で被害が少なく、空襲にもあっていないので、古い町並みが残っています。馬を繋ぎ止める金物が残っている家がありました。

江戸時代は間口の大きさによって課税されていたので、京都と同じように岐阜も間口が狭く奥行きが深い家の造りになっています。しかし京都のように道から道の半分の奥行きではなく、道から川までの奥行きとなり、本当に奥行きが長いです。ボランティアガイドさんの案内で裏道を歩きました。案内がないとわからないような細道です。昔は川の水がここまで来ていて、荷物の上げ下ろしをしていたということです。だから裏側に倉がつくられていますという説明でした。



(細い裏道)

メイン通りにある手湯や水琴窟を楽しんで、鶺鴒い船の方に向かいます。

開幕を控えて舟はきれいになっていました。太陽光パネルを乗せている舟もありました。時代は進んでいるのですね。



(ソーラーパネルを載せた館船)

長良橋に袂のミニパークにある石塔や像の説明を受けました。川端康成の初恋の人が岐阜の人で「かがり火」というお話になっており、それで川端康成が岐阜に縁があるということでこのミニパークに像や碑が置かれているということです。また大きな橋は付け替えのためにこのようなミニパークが設けられているという説明も受けました。

短い時間でしたが、わかりやすい説明で楽しかったです。ボランティアガイドの佐藤さん田中さんありがとうございました。

午前11時半より十八楼直営レストラン「時季の蔵」にて昼食をいただきながら総会をおこないました。10名の参加があり、楽しくおいしく総会をおこしました。



(美味しい料理を前にして、総会を始めます。)



(お料理の前菜 きれいで美味しかったです。)

「時季の蔵」は景観奨励賞建築部門で賞を取っています。総会后、工事の時の事などのお話をうかがいました。写真のパネルが用意されておりそれを見ながら説明を受けました。

十八楼の150周年事業で築120年の蔵を移築してレストランにしたということです。総重量約50tで、直角移動を含めて約80メートルを曳家して移動して、設備込みで約7,000万円の工事だったということです。新築になるので確認申請は出しており、曳家には一ヶ月半かかったということです。曳家の期間に地域の子供たちがロープを引っ張るイベントなどをおこなったということでした。

平成23年度総会で女性委員会の今年度の締めくくりをなりました。

楽しく有意義な一日を過ごすことが出来ました。

30号をお届けします。

平成23年度の後期の報告となっています。

平成23年度は3月11日に起きた東日本大震災の影響で、大阪にて予定されていた、建築士会全国大会が中止となり、毎年7月に開催されていた全国女性建築士連絡協議会が翌年の2月に延期されて開催されました。例年と異なる記事の順番になっています。

平成24年度は新しい役員さんで運営されます。

平成22年度、23年度と2年間、岐阜県女性委員会より出向して、東海北陸ブロック会女性建築士連絡協議会の運営委員長を務めた河内美代子氏と事務局を務めた下川滝美氏、ありがとうございました。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。また、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

(HPアドレスが4月より新しくなりました)

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しく願い致します

